

# ツバメシジミ

*Everes argiades*

シジミチョウ科



ツバメシジミ

撮影-吉原利之

## 名前の由来

ツバメの意味は後翅のしっぽ（尾状突起）が鳥のツバメを思い起こすことからきている。シジミはシジミ貝に大きさや形、メスでは色も似ていることからつけられた名。漢字名：燕蛺

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ

## 特定種

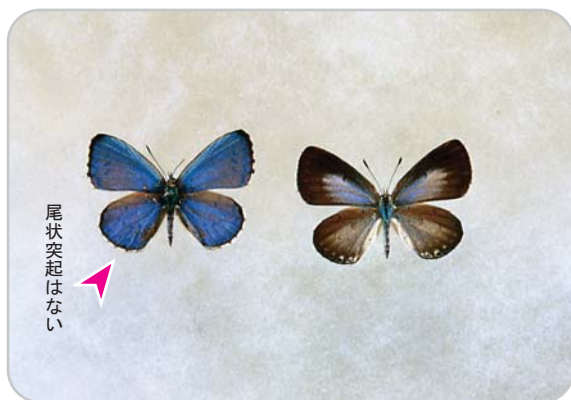
該当なし。

## 形態的特徴

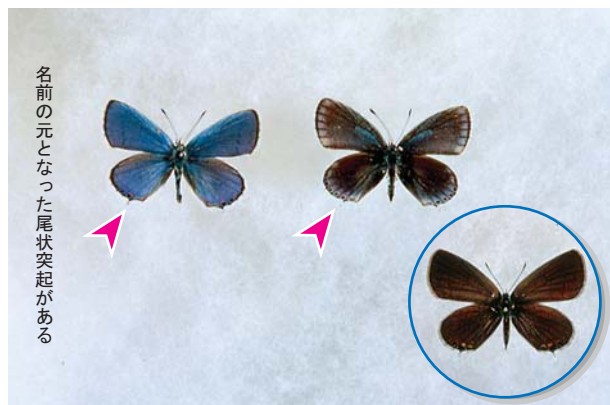
尾状突起のある青色の中形のシジミチョウ。オスの翅表は青色、メスは黒色。後翅裏面第3～5室に鮮やかな赤斑が現れる。

## 類似種と見分け方

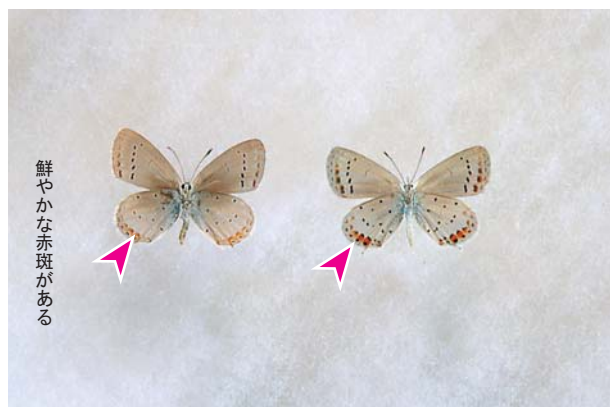
ルリシジミ。  
ルリシジミには尾状突起はない。



類似種、ルリシジミ。表（左がオス、右がメス）



ツバメシジミ。表（左がオス、右がメス、円内はメスの夏型）



ツバメシジミ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期			■		■							
幼虫期	■		■	■		■	■	■	■	■	■	■
蛹期		■		■								
成虫期		■	■	■	■	■	■					

## 生育環境・分布

路傍、草原、河岸、堤、畑地。

**分布：**国外分布は、ユーラシア大陸北部。国内では、日本全土に分布する。ただしトカラ列島以南の南西諸島では土着はしていない。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から低山まで広く分布する。開けた草地に多い。

## 繁殖生態・寿命

年2回の発生。成虫は5月中旬～9月まで見られる。越冬態は幼虫。

産卵はつぼみや新芽とその付近の若葉に1個ずつ、特につぼみの隙間に行われる。幼虫は不活発でアリが多数つきまわっている。秋になると幼虫は体色が褐色に変わり、

地表に降りて、落ち葉に吐糸して越冬する。

蛹は葉裏で見つかるが他の場所に移動するものもあるようである。寿命：不明。

## 他生物との関わり

\*幼虫はクサフジ、ツルフジバカマ、ヤブマメ、ミヤコグサ、シロツメクサ、ヤマハギなどのマメ科植物を食草（食樹）とする。

\*成虫の吸蜜植物はシロツメクサ、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、エゾノキツネアザミ、クサノオウ、クサフジなど多くの種にわたる。

\*フタモンアシナガバチに捕食され、寄生蜂ツバメシジミセアカヒメバチ、寄生蠅としてサンセイハリバエ、アワハリバエなどが知られている。

## 幼虫の食性（食草・食樹）

クサフジ、ツルフジバカマ、ヤブマメ、ミヤコグサ、シロツメクサ、ヤマハギなどのマメ科植物広範にわたり、主に新葉、花、蕾、果実を食べる。



クサフジ。ツバメシジミ幼虫の食草の一つ

## 興味深い話

■主な食草でもあるシロツメクサやハギの花で吸蜜するが、このとき後翅を擦り合わせるように前後に動かすクセがあるが、何のためにそのような行動をするのかは分かっていない。

■季節型で色彩についてオスは変化が少ないがメスは変化が多い。

■地域変異も大きく、十勝地方産の春型のメスは青色が発達してとても美しい個体が多く、人気がある。

■十勝地方のアイヌ語では、シジミチョウ類を「スプンマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

## 配慮事項

食草の種類が広範なため特になし。

### 参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990  
「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981  
「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978  
「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987  
「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984  
「学研生物図鑑 昆虫Ⅰチョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983  
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅲ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1984

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ